

水のセミナー 8月19日

技術編 「健康は命より大切??」

ゲスト講師 堀内道夫先生

光と風の研究所(株)代表取締役

静岡大学工学部客員教授

アンチエイジング研究会理事

1962年 静岡大学工業学部工業化学科卒業、大日本印刷(株)入社、中央研究所主任研究員、米国駐在所長等を歴任。1998年 光と風の研究所(株)を設立。太陽光を中心とした再生可能エネルギーの各国、内外自治体、大・中小企業の取組みを力強く推進。自然エネルギーの活用について、技術や装置の開発から街づくりまで幅広く、長年にわたり活躍中。代替医療には米国で医学本「*Alternative Medicine*」に出合うところから興味を持つ。その後、アンチエイジング研究会理事に就任し、更に各方面の知識人との交流から代替医療への造詣を深められ、今に至る。



①代替医療 (*Alternative Medicine*) とは?

*Alternative*とは「何かの代わりに」という言葉で、
「通常の医療に取って代わる療法」という意味になります。
その方法は伝統医学、民族療法（東洋伝統医学など）から、
アーシング、気功・マッサージ、ハーブ、音楽療法など多岐に渡ります。
水素の摂取もそのひとつと言えるでしょう。

②マイクロウェーブによる温熱療法

現在、日本人の二人に一人はかかると言われる細胞の病「がん」。
男女に差はありますが、死亡率は17~26%前後（2019年データによる）と、
決して低くはなく、治療にも苦難を伴います。

しかしそのがんには、あまり知られていない大きな特徴があります。
それが「熱に弱い」こと。がん細胞は41~43℃で死滅するのです。

がんを治療する代替医療として、堀内先生がご紹介下さったのが
マイクロウェーブによる温熱療法です。

発明家であるご友人が開発したマイクロウェーブの機械は、原理こそ厚労省が肩こり改善などで認めている従来の機械と同様ですが、それよりも強いワットで動きます。

マイクロウェーブ（電磁波）でまるで電子レンジのように体の任意の部位を、内側からじんわりと温めることができます。この機械であれば、体に負担をかけ高熱にうなされることなく、がんの部位だけを容易に41～43℃まで上げることが可能です。つまり、**がんを死滅させることが出来る**のです。

最近では医学博士によるエビデンス（実際に使用し治療した症例集）もあり、それによれば治癒率は80%前後まで跳ね上がっています。
（「癌活性消滅療法」医学博士 前田華郎氏著より）

③ まだまだ広がる代替医療の世界

代替医療というと怪しく感じてしまうのが常ですが、堀内先生はセミナーの中でこう仰っています。

「宇宙の95%はまだ何の物質だか分かっていないんです。それをさも全部分かっているような顔をして、『がん（の治療法）はこうでなきゃいけない』とかやはりちょっと、どうかと思う」

弊社で取り扱う水素や、注目されるHHOガス、ケイ素など、まだまだ解明されていない物質や効能が、この世には多く存在します。健康や治療に対する情報があふれる世の中で、皆さまの命を守るのは、**従来の型に嵌った『健康』ではなく、常識や固定観念を覆す新たな知恵や発明かもしれません。**

